

農学生命科学部

第10回 研究推進セミナー

【第14回 発生・生殖生物学研究室コロキウム 共催】

【新学術領域研究 配偶子産生制御 共催】

ショウジョウバエ生殖細胞形成機構

演者：小林 悟 先生

基礎生物学研究所

発生遺伝学研究部門・教授

日時：平成26年11月13日（木）

17:40～19:10

場所：弘前大学コラボ弘大8階大会議室



生殖細胞は、次世代へ遺伝情報を正確に伝達できる細胞であり、生物にとって最も重要な細胞の一つです。さらに、医療や育種等の学問分野と生物学の接点にもなりうる細胞であり注目を集めてきました。本セミナーでは、この生殖細胞が形成される機構や生殖細胞の性を決める機構に関する成果について紹介したいと思います。

さらに、大学院時代から今に至るまでの間、私自身が何を考えて研究を進めてきたのか、その過程でどのように苦しんだのかについても触れたいと思います。研究者として職を得ること、職を得たとしても研究を継続させることが難しい時代です。一方、研究には、何物にも代え難い大きな魅力があります。私自身、悩みながらなんとか研究を続けてきました。本セミナーが、将来に不安を抱く方に対しての1つの指針になればと思います。

参考文献

K. Hashiyama et al. (2011) *Drosophila* Sex lethal Gene Initiates Female Development in Germline Progenitors. *Science*, 333, 885-888.

Y. Hayashi et al. (2004) Nanos suppresses somatic cell fate in *Drosophila* germline. *PNAS*. 101, 10338-10342.

S. Kobayashi et al. (1996) Essential role of the posterior morphogen nanos for germline development in *Drosophila*. *Nature* 380, 708-711.

主催：農学生命科学部生物学科 発生・生殖生物学研究室

小林一也（内線3587 kobkyram@cc.hirosaki-u.ac.jp）

共催：研究推進委員会 学部後援会